

ひとむれ

二〇二三年六月号

卷頭言

校長 清澤満

六月十二日の運動会に向けて本格的な練習が始まりました。運動会は子ども達だけではなく先生達にとっても力が入る行事の一つです。時間を掛けて一生懸命に取り組んできた練習の成果を保護者・ご家族は勿論のこと、いつも家庭学校を支えてくださっている皆様

にも見ていただきたいとの思いが、練習を重ねるに連れて日ごとに高まってきます。家族と離れて暮らす家庭学校の子ども達にとつてはなおのこと、そうした思いが一層強いことでしょう。

今年はコロナ禍で行う三回目の運動会となりました。最近の北海道の感染者数は減少傾向にあるものの年代別では依然として十代以下の割合が高くなっているようです。そうし

た中、地元遠軽町の各小中学校は、感染防止のための様々な工夫を凝らした運動会を計画されています。家庭学校と望の岡分校としても感染状況等に留意しつつ、種目を減らすなどの対応で時間を短縮して開催することとしました。緊急事態宣言下にあった昨年は保護者と関係児童相談所の皆様のみへの案内でしたが、今年は現状の感染状況から感染防止対策の徹底は可能と判断し、各関係機関・団体

の皆様や支援者の皆様に広く案内させていた
だききました。従前から実施している全ての
種目を組み込むことはできませんが、家庭学
校らしい躍動感溢れる種目を随所にちりばめ
た運動会として楽しくご覧いただけるのでは
ないかと思っております。

家庭学校、分校それぞれ二名の担当者が中
心となって準備を進めてきた運動会本番まで
二週間を切り、職場全体の動きが加速してき

ました。運動会の主役である今年の子どもの人数は十三名です。準備段階も含めみんながそれぞれ役割を持って運動会に臨みます。開閉会式の児童生徒あいさつをはじめ、紅組、白組のリーダー・サブリーダー、寮対抗のポスター展担当者等々子ども達が担う役割はたくさんあります。これら役割の多くは紅白分けが決まった後、子ども達自身がチーム内の話し合いで決めていきます。美術の授業で制

作する応援旗の完成も楽しみです。そこには手形と一緒に一人ひとりの目標が記されます。

分校の担当者である富山先生が五月の末から「運動会通信」を毎日発行してくださっています。空模様を見ながら練習内容や練習場所など今日明日必要な情報がタイムリーに伝わってきます。最近の通信には週間天気予報が掲載されています。このところ雨模様の天

気が続き練習もままなりません。願うは子ども達がこのまま調子を崩さずに本番を迎えてくれること、そして運動会当日の青空です。

どうして私は必死に野菜を作っているのか

児童生活支援員 稲田翔平

私が家庭学校で野菜を作り始めて今年で二年目。昨年は、野菜作りについて何もわからないまま蔬菜班に配属され、入職して一年目の新人で無知の私が石上館の副寮長をしながら野菜と共に一年間を必死に過ごしていました。

昨年は蔬菜班の班長であつた職員が退職され、野菜作りについて詳しい班員がおらず、とても苦勞したことを鮮明に覚えています。それはもう失敗の連続で、野菜の病気や害虫対策が遅くなつてしまいメロン、キュウリが全滅。種まき、植え付け時期が分ならず適当に植えてしまった結果、凄まじいほど苦みのある立派なとう立ちレタスが完成。野菜の苗をどれだけ作つたら良いのか分からず作りす

ぎてしまい、週に一度コンテナいっぱいのみニトマトを収穫し、栄養士さんを苦笑いさせる。水やりのタイミングや量が分からず、らつきようサイズのタマネギと里芋のようなかわい長いものが完成。それらの失敗の一番の原因は、すべて一人で片づけてしまおうとして時間が足りず上手くないかない負の連鎖でした。言い訳を言うようですが、去年は私が家庭学校に入職して一年目であり、さらに副寮

長まで任され、そちらでいっぱいいっぱい自由で動ける時間も無く、蔬菜班の班長でもなかったため他の職員の顔色を窺ってしまい作業指示を出すこともできませんでした。結果、収穫量は全体的に少なく不安定で、非常に悔しい結果となりました。

春から野菜を作りながらも栽培方法を調べながら作業はしていましたが、野菜作りのシーズンが終わってからも、本やインターネット

を使い野菜一つ一つの栽培方法を徹底的に調べ上げ、失敗の原因と改善方法をまとめ、また私一人だけではなく、全員の力を合わせて成功させようという気持ちも大切にし、万全の体制で今年の蔬菜班に臨みました。真冬のうちから春の種まき、育苗が本当に楽しみで、実際に始まってからは新しい芽が次々に出てくる様子を見て非常に嬉しかったことを覚えていきます。三月までは順調に育苗が進んでい

ましたが、四月の下旬に夜間、温床のストー
ブをつけ忘れてしまい、いくつかの苗が枯れ
てしまうという失敗がありました。苗数で見
れば全体の数%程度の小さな被害であり、新
しく苗を買ってしまえば済む話ではあったの
ですが、やはり自分で種を播き、弱弱い小
さな新芽が産まれた瞬間から見ていたため一
つ一つの苗が自分の子の様に大切に、非常に
悲しく、しばらく落ち込んでいました。それ

からも、完璧と思えるほど勉強をしたつもりだったのだが、次から次へと小さな問題と失敗が続き、野菜作りの奥深さを思い知らされました。今回、ひとむれの原稿を書いてほしいと頼まれた時に、蔬菜班の事を書こうと思いついた。今までのことを思い出していた時に、ふと「どうして私はこれほど必死になって野菜を作っているのだろう」と考えました。建前として、子ども達に野菜作りを通して自然を経

験してもらおうであるとか、野菜嫌いを克服してもらおうためであるとか、そんな事を書いて最後にまとめたら良いか。と軽く考えていましたが、この原稿を書いているうちに、思ってもいないことを書くことに抵抗を感じてきました。正直に今の私の気持ちを言うのだとすれば、子どもがどうであるとか、施設職員であるからこう考えるべき、というのは本当にどうでもよくて、何よりも「おいしい野菜

を作って自分で食べたい！」 「その野菜を誰かに食べさせて、あまりのおいしさに驚かせたい！」ただそれだけでした。作業班学習という時間を利用してただただ私自身のわがままと欲望のために班員を付き合わせていますが、その分私も頑張って作業しているし、いかな、と思いながら子ども達と一緒に野菜を作っています。今年こそ成功させ、建前では蔬菜班として、本音では私自身の欲望も含

めてこれからも頑張っていきたいと思います。

交流人事での経験

望の岡分校教諭永田健司

本年度の人事異動で紋別高等養護学校での二年の勤務を終え、この学校に赴任することとなりました。今まで中学校と高校での勤務を経験しましたが、高等養護学校はこれまでの経験とはまた別の、今までの自分にはなかった感覚が必要なんだということを感じ、大事

なことを学んだような気がします。

今まで私は、授業やそれ以外の場面でも、生徒と接するときの基準は「自分が楽しいかどうか」というところを大事にしてきました。理科の勉強が自分は楽しい、だから子供にも教えたい。この法則見つけたこの人すごくね？してこの法則つかったら、なんでこういうことが起きるのか説明できんだぜ？三秒後この球はこの位置にあつて、スピードはこのぐら

いつて未来のことが予言できてしまいうなんて
楽しくね？何年後かの何月何日の夜、星がこ
んな風に見えるはずだ、なんて神様みたいな
ことも言えちゃうんだ！みたいな。生徒指導
についてもやっぱりそうで、大事なことは自
分が楽しいかどうかです。学校で誰かがつま
らなそうにしていたら楽しくない。声をかけ
てみて、できればみんなが気持ちよく生活を
送れる環境を作っていききたいと思うし、子ど

もたちにも誰かの苦痛の上に成り立つ楽しさなんてないよねって思ってた。そこが中学校と高校を経験してきた私の基本線のような気がします。

高等養護学校では教科の授業も行いますが、授業の半分近くは学科の作業学習となります。そこでの作業学習は木工や窯業、園芸等学科によつてその技術を身に付け就職に向かうという面もありますが、どちらかというお仕事

に向かう姿勢を身に付けることに重きが置かれていきます。学習について違いはありますが、それぞれの特性もあり苦手なことが多いです。ですが、仕事に直接それが関係あるかということ仕事にもよりますが、小学校での学習内容程度ができれば問題ないことが多い。なら、働く人として大切な、長時間作業を続ける体力や、報告・連絡・相談をしつかりできることや、安全に気をつける力、長期間安定して

仕事を続けるための基本的な生活習慣などをストロングポイントとして身に付け就労に向け送り出そう、というのが私の感じた高等養護学校的な方針で、確かに生徒が社会の一員として生きていくために必要だと思いました。教科の学習でも、国語では電化製品の説明書の読み取り方や、数学では時刻表の見方、理科では災害時の動き方等普段の生活を送るために必要なことを多く学びます。

高等養護学校での二年間で、高等養護学校で大事だよなと感じた、「必要だから生徒に身に付けてほしい」と思うことと、今まで大事にしてきた「楽しいからやってみてほしい」ことを同時に成立させることが難しいと思いました。例えば生徒に「困ったときは誰かに相談できることが必要です」ということを身に付けさせるときに、「楽しいからやってみな」とはならない。困って動けないというこ

とを自分で認識できる。何に困っているのかが分かる。困っていることの内容的に誰に相談すべきか判断できる。恥ずかしい、しゃべったことない、怖そうだ、そういう個人的な思いは置いといて相談すべき人に話すことができる。んー、どの段階でも、相談できない子が楽しそうに取り組める場面を想像することは難しい。逆に苦痛だと思う。でも必要・・・

。

「将来の自分には必要な成長だ。成長した自分が楽しみだから、今日の前にある辛そうなのこの課題に取り組んでみよう」。できるかどうかかわからないけれど、そういうふう生徒が思えるような接し方ができるように、望みの岡分校で生徒と向き合っていければと思います。

児童の声

中三S・石上館卒一R・掬泉寮中三S・掬泉寮中三S
「校長杯を終えて」

石上

館中三S

ぼくは、はじめての校長杯でした。一日目は、ソフトボールとキックベースがありました

た。ぼくはソフトボールをたいいくのじゆぎ
ようでしかやった事がなかった。なので少しふあ
んだったけどやってみたらよくもわるくもな
いせいせきだったと自分では思います。

つづいて話すのはキツクベースです。キツ
クベースは、そんなにとばないと思っていた
らたまたまホームランがでてうれしかったで
す。それがいはたいしいけつかをだせ
ませんでした。だけどこんどやるきかいがあ

ればいいけつかをのこしたいです。

二日目はフットサルとミニバレーです。ミニバレーにかんしては、そんなにやる気なく元気もなかったのでミニバレーの話はしようにやくなります。つづいてはフットサルです。一回戦目はしよくいんチームとのたいけつでした。その時ぼくはキーパーをしました。ぜんはんはちようしよくゴールキーパーをできました。そのおかげでぜんはんは、一対〇

とかっていました。ですが、こうはんせんで
は自分がへただったせいで○対二になりまけ
てしまいました。すこしくやさしかったです。
二回戦目はきくせんりようとたたかいました。
その時ぼくはせめやくのフワードでした。
しよくいんチームあいてにあっしようにしてい
たきくせんりようだったので少しふあんでし
た。でもそのきくせんりようあいてに二点自
分がとれたのでよかったです。

「思い出にのこった潮干狩り」

石上館卒一

R

僕は、五月七日に潮干狩りに行きました。

その時に思い出にのこっていることを、三つ

書きたいと思います。

一つ目は、風の強い中で食べた昼ごはんです。なかなか強い風の中でごはんを食べることはふだんは、あまりないことなので思い出にのこりました。

二つ目は、潮干狩りをしている時のことです。僕は、潮干狩りに行くのは、今年で二回目でした。去年は、ぜんぜんアサリが採れずアサリの数よりカニの数の方が多かったです。

でも今年も、かなり多くアサリを採ることができました。あまり場所を移動せず、一回アサリがでてきた周りを探すとたくさん出てくるのですが、わかりました。思っていた以上に採れたので良かったです。

最後の三つ目は、採れたアサリで作った料理です。かなりの量を採ることができたのでアサリの味噌汁や酒蒸しなどにして食べました。自分や寮のみんなで採ったアサリなので

いつもよりもおいしく感じました。とても思
い出にのこるような経験ができてとてもよか
ったし楽しむこともできました。

「桜が無かった花見の会」

掬泉寮

中三S

花見の会ってなんだろう？と考えているうちに花見の会が、やってきました。桜はみごと
とにちつていましたが、僕は、桜より食べる
事にしか、きょうみがありませんでした。太
巻きみたいのが、でしたが、その中でも、
焼きそばとアスパラが入ってる太巻きが、自
分的には一番好きでした。ほかにもくし団子
などがでしたが、その日はとても太陽が出

ていて、すごく暑かったので、少し置いていたらとけてぐによくよくなった。少し置いていた。ちよつとざんねんでした。出し物は、石上とかぶってしまいました。それぞれの良さがでていて良かったです。石上の出し物では、司会のS君が、とても司会がうまくて、笑いもとれていて、石上全体のふんいきがすごく明るい感じだったのが、印象的でした。そして、最後にかたづけをして、花見の会は

終わりました。最初は、暑くてめんどくさい
と思っただけでしたが、始まってみればあつとい
うまででした。これからも家庭学校の行事は、
たくさんあるので、めんどくさい行事もまず
は、やってみようと思います。

「つらかったマラソン大会」

掬泉

寮中三S

ぼくは、この春季マラソン大会でうれしかったことと、がんばったことを書く。

まず、がんばったことは人生で初めて五キロメートルを走ったことだ。なぜがんばったかというとまわりのみんなが、がんばって走っているのに自分だけ途中で離だつするのがいやだったのもあるし、先生や友達がいつし

よに走ってくれているのに途中でとまるのがいやだったこともあった。

うれしかったことは、五キロメートルを走りきったことだ。なぜ五キロメートルを走りきってうれしかったのかというと、小学校の頃でも二・五キロメートルも走りきれなかったのに、先生や友達がいつしよに走ってくれたこともあり五キロメートルを走りきれた。走りきった時達成感もすごかったし給水する

時いがいいには、止まらなかつたからすごくうれしかったし、がんばったかいがあると思つたしみんなが、「おつかれさま。」や「がんばったね。」という声がきこえてきてほめてくれたことがとてもうれしかった。前いた学校では、走りきつてあたり前みたいになかんど、やる気もでなかつたしあまりやりたくないと思つていたけども、五キロメートル走りきれてぼくは、本当によかつたし、秋季

マラソン大会を走りきる自信もついたので今回初めてだったマラソン大会は、かなりいい思いでになった。

これからも、マラソンだけじゃなく勉強や作業もがんばっていかうと思った。